

## 《前橋女子高等学校 イギリス研修 Day4 (3月11日) 報告書》

1週間の始まりも、イギリスらしい安定の曇り空。白いというか、グレーというのか一面絵具を塗りつぶしたような空色が1日続きます。気温も雨の昨日より、更に下がっている様子。底冷えする寒さの中語学学校 Studio Cambridge での授業がスタートです。

朝は昨日よりも大分余裕を感じる登校となりました。到着次第カフェテリアに移動、同じく今日からスタートするスペインのグループ30名、タイのグループ9名とともに、スタッフの Mohamed さんによるオリエンテーション。ルールや注意事項について説明があった後に、1人1人クラスが発表されました。前女生は先日のテスト結果をもとに7クラスに分けられていました。新顔の3か国の生徒の他、個人留学の学生たちもおります。サウジアラビア、イラン、シリア、トルコ、オマーン、レバノン、スウェーデン、イタリア、ベルギー、中国、韓国などです。他国生ばかりのクラスもあれば、前女生で固まっているクラスもありました。

授業は9:30~11:00、11:30~13:00の2セッション構成で、途中30分のブレイクを挟み、13:00~13:45がランチタイムとなります。ブレイクやランチタイムのカフェテリアには、人、人、人！そこはまさに社交の場であり、最大のチャンスであることを本能的に察知し行動に出る生徒の姿が。一方で教室とは違ったオープンな空間に圧倒され戸惑う様子も。StudioのディレクターのTimさんが今朝言っていました。「日本の学生はテスト結果は抜群に良いが、クラスに入ると会話が続かない」あくまでも一般論としてとのことでしたが、是非彼女たちにはそのステレオタイプな日本人像を覆してほしいと思います。私たちが去った後に「日本人は Super aggressive だから、取り敢えず一番上のクラスにいれよう」とTimに言わせられるような変化を起こしてやりましょうよ。

教室で椅子にもたれかかって、一見話しかけづらいオーラ全開のスウェーデン人の女の子が、話してみたらとても Friendly だったこと。また、前女生が多いクラスの生徒は、数少ない留学生との会話のきっかけを作るには、教室内でのポジショニングも大事だ！と作戦会議をする様子も。昨日までの空気を一変させる仲間の変化に刺激を受け、次は自分がその中心にいて欲しいと心から願います。

午後は、ケンブリッジ大学キャンパスツアーです。今回3名の学生さんがツアーを担当してくれました。実は日本人だった Hana さん（種明かしはツアーの最後に）、ポーランド出身のガブリエルさん、そしてドイツ人のローラさんです。Hanaさんは植物病理学の PhD 課程、ガブリエルさんは学部生（政治学）、ローラさんは Zoology の修士課程です。それぞれ別のカレッジで学ぶ彼らがケンブリッジ大学の歴史や逸話に触れながらウォーキングツアーを行ってくれました。移動中も話が聞きたい、近づきたいと彼らの隣をめがけて走る生徒も。ケンブリッジの現役学生さんによる大学の説明も必聴ですが、それ以上に彼らの人となりについてなど、余白部分にこそ目を向けて欲しいと思います。インターナショナルの学部生に対しては、様々な奨学金制度があること、一方で理系分野に強いケンブリッジ大学では、文系分野の学生への奨学金や Fund は実は限られており修士以上となると競争率が高いことなど、彼らの実体験から出てくる話は非常に興味深く、そして将来のヒントとなり得るものであると感じます。

3名の学生さんと別れた後に、こんなこと聞けばよかったと感じている生徒もいるのではないのでしょうか。ケンブリッジでの後半2日間には、より少人数でのセッションが準備されています。自分の近い未来の糧となるような経験にしてほしいと思います。

学生さんと別れたマーケットで今日は解散。まだ時間も早かったため、多くの生徒が残って散策を続けていました。家族へのお土産選びをする様子が微笑ましかったです。

明日はそろそろ青空が見たい！午前の英語クラスでは、今日の自分を越えられるように、ブレイクタイムがブレイクしている場合じゃないくらい忙しくなるように、明日も全力で行きましょう。

明日の午後は Studio からお題が出され、街中 Treasure Hunt を行います。実は今日のキャンパスツアーでネタバレが多数あったことに、彼女たちはまだ気付いていない・・・。



本日の集合写真 左からローラさん、ガブリエルさん、ハナさん。赤い上着と笑顔が眩しい！



オリエンテーション



ブレイク中の談笑



キャンパスツアー